

公益財団法人朝日新聞文化財団 文化財保護活動助成申請書

記入例

(西暦) 2019年6月10日

ふりがな	しゅうきょうほうじん ちょうじつじ				
申請者名 (法人名)	宗教法人 朝日寺				印
ふりがな	すずきたろう				
代表者氏名	代表役員 鈴木太郎				印
ふりがな	〒530-8211 おおさかしきたくなかのしま				
申請者住所	大阪市北区中之島 5-3-2				
TEL	06-XXX-XXXX	FAX	06-XXX-XXXY	mail	XXXX@asahitemple.jp
ふりがな	すずきじろう				
連絡担当者氏名	鈴木次郎				
連絡担当者所属	宗教法人 朝日寺 副住職				
TEL		FAX		mail	

(1) 事業概要と申請額について 複数年事業の場合(a)(b)の各年度内訳を次頁(4)(6)に記載してください

ふりがな	もくぞう しゃかによらいりゅうぞう				
事業名	大阪市指定有形文化財「木造 釈迦如来立像」の保存修理事業				
事業概要 (2行以内)	慶派仏師が造立した等身大立像。経年劣化による体軀の歪みや虫損が顕著、後代の漆塗りも。解体の修理の上、後補塗装を原状に復す修復事業をおこなう。				
事業実施期間	2020年4月1日～ 2021年10月31日 (2カ年事業)				
総事業費(a)	1,100万円	申請総額(b)	450万円		

(2) 申請対象である文化財の指定・登録状況

指定状況	大阪市指定	区分(有形・無形)	有形
所有者	宗教法人 朝日寺		
管理責任者	代表役員 鈴木太郎		
受託管理者			

(3) 修復事業等の委託・発注先(予定を含む)

委託・発注先	公益財団法人〇〇〇〇				
(同) 責任者名	理事長 〇〇〇〇				
(同) 連絡先 住所	〒XXX-XXXX 奈良市〇〇1丁目32番地				
TEL	000-000-0000	FAX	000-000-0001	mail	0000@000.or.jp
選定理由 (2行以内)	仏像の修復、とりわけ国宝や重要文化財に指定された文化財の修復実績が豊富であり、経験を積んだ技術者も多数在籍しているため。				

(4) 事業費用について 単年度事業の場合は総事業費欄に事業総額を記入して下さい

総事業費(a)	1,100 万円	
複数年事業の場合 の各年度別事業費 内訳	2020 年 4月～2021 年 3月	800 万円
	2021 年 4月～2022 年 3月	300 万円
	20 年 月～20 年 月	万円
	20 年 月～20 年 月	万円

(5) 事業費の内訳 作業による事業設計書(仕様書・予算書・見積書等)を別途添付して下さい

費 目	金 額
人件費	720 万円
原材料費	260 万円
運搬・出張費	56 万円
記録費	34 万円
消耗品費	12 万円
その他諸経費	18 万円
	万円
	万円
	万円
	万円
	万円
総事業費(a)	1,100 万円

(6) 資金計画について 事業実施に充てる自己資金、補助金、助成金等の資金見込額を記載して下さい

必要資金額(b)	内訳	自己資金	今回申請総額	補助金①	補助金②	他の助成金
1100 万円			350 万円	450 万円	300 万円	万円
▽複数年事業の場合は各年度別に上記の内訳をご記入下さい						
年度	資金計	自己資金	今回申請額	補助金①	補助金②	他の助成金
2020年度	800 万円	250 万円	300 万円	250 万円	万円	万円
2021年度	300 万円	100 万円	150 万円	50 万円	万円	万円
2022年度	万円	万円	万円	万円	万円	万円
2023年度	万円	万円	万円	万円	万円	万円
見込んでいる補助金や助成金の名称						
補助金①	大阪市補助金					
補助金②						
他の助成金						

- ※(1)(4)(5)の総事業費(a)と、(6)必要資金額(b)は必ず一致させて下さい
- ※(6)必要資金額(b)と、「自己資金」～「他の助成金」の合計を一致させて下さい。複数年度の場合も同様です。
- ※(6)今回申請総額は、(1)申請総額(b)および(6)複数年事業の「今回申請額」の合計額と一致させて下さい
- ※「補助金①②」は文化庁等の国や自治体からの補助金見込額です。その見込金額と名称を記入して下さい
- ※「他の助成金」の欄には、当財団以外の団体からの助成金見込額と、その団体名を記入して下さい

(7) 申請対象文化財や申請事業について 画像等を用いてわかりやすく説明して下さい

①対象文化財の概要、事業内容の詳細、事業と助成金の必要性

当寺本尊である木造釈迦如来立像は鎌倉後期に慶派の流れを汲む仏師により造立されたことが古くから言い伝えられてきた。全長 2m を超える大きな造立であり、ヒノキ材、寄木造りの立像である。

明治期の廃仏毀釈や第二次世界大戦の空襲も歴代住職の努力で免れてきた。造立の起源や詳細は不明であるものの、これまで大きな修復はなされてこず、本体の状態が比較的安定していたこともあり、昭和 40 年に大阪市の有形文化財に指定された。現在、本堂に安置されており、法要等で檀家信徒には日常的に公開されているほか、本堂で定期的に開催される法話会や落語会などの折には、一般の人々にも公開されている。



この釈迦如来立像は、長年にわたって大切に手入れを続けてきたものの、経年劣化による木材の狂いや亀裂、また、明治初期の廃仏毀釈運動が盛んだった折には、檀家の物置でひっそりとかくまわれていたこともあり、表面の漆塗りの剥落や虫損などが発生。それらが阪神大震災時に本堂が被災した折、雨漏り等で劣化が進んでいた。



昨年 10 月、大阪大学の〇〇〇〇教授の来訪、調査を受けた折に、本格的な解体修復を早急に行う必要があることを指摘された。(写真 2 : 背面の亀裂の様子。広い部分では 1cm を超えている。写真 3 : 表面の漆塗りの剥離と虫損)



また、狂いの生じた背面の隙間からマイクロ・ファイバースコープを挿入して胎内の様子を観察した結果、像胎内に何等かの封入物が存在することが分かった。(写真 4 : マイクロ・ファイバースコープによる画像。何らかの胎内封入物とみられる小塊が複数確認された) これは、この像の起源を解き明かすなんらかのヒントになるものかもしれない。



このため、大阪市教育委員会にもご相談の上、本格的解体修理を行うことを決断した。

当寺は往時には檀家数が 1000 を超えていたが、現在では高齢化や宗教離れから 250 を切っている。このため、本堂や庫裏の維持、他に所蔵する脇侍などの仏像や掛図なども本格的修復の必要性が指摘されたが、すべてを自己資金で賄うには厳しい財政状況があり、助成を申請しました。

②スケジュール

- 2020年4月：委託事業者の正式選定・発注、法要、搬出
5月：委託先工房にて現状撮影・記録と並行して素材の調達
6月～：解体・修復作業
2022年9月：修復完了
10月：本堂に搬入・安置、開眼法要（一般公開）
12月：報告書提出

※詳細は公益財団法人〇〇〇〇の作成した事業設計書・見積書をご覧ください。

③事業の効果や社会的な影響について

当寺の本尊であるこの釈迦如来立像は、「〇〇のおしゃかさん」と呼ばれ、地域のシンボルとして長年檀家や地域の人々に愛されてきた。この修復はこれらの人々に文化財の重要性を再認識していただく契機ともなっており、昨年秋から始めた寄付金も少しずつだが集まってきており手ごたえを感じている。また、今回の解体修理によって胎内封入物が確認できれば、その内容によりこの仏像の造立年代や作者、造営目的などが明らかにされる可能性がある。また、それによって、美術史のなかでいくつかの発見につながる可能性もある。

④事業成果の公開とその方法、スケジュール

修復終了後の10月には開眼法要を行い、檀家や一般の人々に公開する。
また、法要後はこれまで通り本堂に安置し、来訪者が目にすることができる。

⑤助成の事実の公表方法について

※対象文化財の修復や事業は「公益財団法人朝日新聞文化財団の助成により実施されたこと」を展示・公表していただく必要があります。その具体的な方法等について、以下に記載して下さい

開眼法要のお知らせに、この本尊の修復には貴財団の助成により成就したことを明記するとともに、寺のホームページや案内板にもその旨を記載する。
また、貴財団から提供していただく木製立札を、常時、本尊の前に置き、檀家や一般の方々の目に触れるようにします。

以上